

おわりに

本校では、徳島県の研究主題「豊かにかかわり つながり 「わたし」が広がる造形活動」を受け、2年間、研究に取り組んできました。2年間の図工教育研究を振り返ると、子どもたちの自由で豊かな創造力に驚かされる日々でした。授業や実践の中で、子どもたちは我々の予想を軽々と超える発想を見せてくれました。光と影を組み合わせで偶然できる形にわくわくしたり、敷きつめたペットボトルキャップからイメージを膨らませて遊んだり、キャンバスに見立てた床や壁・窓ガラスにビニールテープを貼り付けたりと、思いのままに表現する子どもたちに何度も心を動かされました。迷いながら、悩みながらも楽しそうに活動し、友だちと認め合いながら目を輝かせる姿に、“学びの原点”を感じずにはいられませんでした。造形活動は、単なる表現の手段ではなく、子どもたちが自身を見つめ、他者とつながり、自分を取り巻く世界を再発見するプロセスそのものであると思います。子どもたちの造形活動を通して「わたし」が広がっていく瞬間に立ち会えたことは、何よりの喜びでした。あらためて、図画工作科は子どもが自分自身と向き合い、既成概念にとらわれることなく、自由に表現することができる教科だと実感しました。

一方で本校の教職員は、児童の実態把握に努めながら題材の精選・配列に工夫を重ねてきました。日常的なディスカッションの繰り返しと惜しみない試行錯誤の積み重ねは、図画工作科だけにとどまらず、他教科の指導においてもおおいに活かされています。また、子どもたちのモチベーションを維持させるために、ゴールを意識させ、目的意識を明確にしようと、教職員がアイデアを出し合ったことも、今後の学習活動につながっていくであろうと確信しています。ICT機器の効果的な活用についてもチャレンジしました。自分の作品をアーカイブ化したり、タブレットを駆使して子ども同士で互いに鑑賞し合ったり、イメージを掴んだり、共有したりと主体的・対話的な学びを深めることもできたように思います。

今回の研究大会の開催にあたり、県図画工作部会事務局の方々をはじめ、指導助言者の先生方、徳島市教育委員会の方々、県図画工作部会の皆様方には、温かいご指導とご協力をいただきました。様々な形で研究を支えてくださったすべての皆様方に心より感謝申し上げます。

最後になりましたが、本研究はこれでゴールというわけではありません。今後も、子どもたちとともに造形活動を通して、「豊かにかかわり つながり 「わたし」を広げ」ていきたいと考えています。徳島県の図画工作教育に対して、微力ながら本校の研究をお役に立てていただければ幸いです。

内町小学校 教頭 塩田史彦